バックエンド第3回 更新・削除・登録の実装

- バックエンド第3回 更新・削除・登録の実装
 - 更新機能仕様
 - RESTful API(Controller)仕様
 - REPOSITORY仕様
 - SERVICE仕様
 - REPOSITORY(java)実装
 - REPOSITORY(xml)実装
 - updateに関して
 - insertに関して
 - SERVICE実装
 - @Transactionalアノテーション
 - 。 CONTROLLER実装
 - @PutMappingアノテーション
 - @DeleteMappingアノテーション
 - @PostMappingアノテーション
 - ビルド・動作確認
 - ビルド
 - 起動
 - 更新動作確認
 - 更新(新規登録)動作確認
 - 削除機能確認
 - 新規登録機能確認
 - まとめ

更新機能仕様

RESTful API(Controller)仕様

Class名: ItemController

機能 	メソッド	URL	method名	レスポンスボディ
1件更新	PUT	/api/items/{id}	updateByKey(id)	void
1件削除	DELETE	/api/items/{id}	deleteByKey(id)	void
新規登録	POST	/api/items/	createNew(param)	int id

REPOSITORY仕様

Interface名: ItemDao

No.	戻り値型	メソッド名	引数	
3	void	updateByKey	Item item	

	No.	戻り値型	メソッド名	引数
	4	void	deleteByKey	int id
•	5	void	createNew	Item item

Mapper名: ItemDao

No.	ディレク ティブ	id	パラメータタイプ	SQL
3	update	updateByKey	com.example.webapi.entity.ltem	insert into items (id, title, content, status, created, updated) values (#{id}, #{title}, #{content}, # {status}, now(), now()) on duplicate key update title = #{title}, content = # {content}, status = #{status}, updated = now()
4	delete	deleteByKey	int	delete from items where id = #{id}
5	insert	createNew	com.example.webapi.entity.ltem	insert into items (title, content, status, created, updated) values (#{title}, #{content}, # {status}, now(), now())

SERVICE仕様

Class名: ItemService

No.	戻り値型	メソッド名	引数
3	void	updateByKey	Item item
4	void	deleteByKey	int id
5	int	createNew	Item item

REPOSITORY(java)実装

src/main/java/com/example/webapi/repositoryのItemDao.javaに追加します。

ItemDao.java: public interface ItemDao {} に以下を追加します。

```
void updateByKey(Item item);

void deleteByKey(int id);

void createNew(Item item);
```

REPOSITORY(xml)実装

src/main/resources/com/example/webapi/repositoryのItemDao.xmlに追加します。

ItemDao.xml: <mappaer> ~ </mapper>のselectByKeyの下に以下を追加します。

updateに関して

PUTの仕様として、更新KEYが存在すればUPDATE、存在しなければINSERTですので、MySQLでは insert ~ on duplicate key update ~ を使います。

insertに関して

INSERT後に自動生成したIDを取得してフロントエンド側に返す必要があるので、以下の設定をします。 useGeneratedKeys="true" keyProperty="id"

この設定をしておくと、service層でitem.getId()することで生成されたIDを取得できます。

SERVICE実装

src/main/java/com/example/webapi/serviceのItemService.javaに追加します。

ItemService.java:のselectByKeyの下に以下を追加します。

```
@Transactional(rollbackFor = Exception.class, propagation =
Propagation.REQUIRED, readOnly = false)
   public void updateByKey(Item item) {
      itemMapper.updateByKey( item );
   }

   @Transactional(rollbackFor = Exception.class, propagation =
Propagation.REQUIRED, readOnly = false)
```

```
public void deleteByKey(int id) {
    itemMapper.deleteByKey( id );
}

@Transactional(rollbackFor = Exception.class, propagation =
Propagation.REQUIRED, readOnly = false)
    public int createNew(Item item) {
        itemMapper.createNew( item );
        return item.getId();
}
```

@Transactionalアノテーション

トランザクションを書き込み可能(readOnly = false)に設定し、 全ての例外を補足し、発生した場合ROLLBACKする(rollbackFor = Exception.class)よう設定します。

propagationに関しては、REQUIRED:「トランザクションが開始されていなければ新規に開始し、すでに開始されていればそのトランザクションをそのまま利用する」に設定します。

参考URL: https://qiita.com/NagaokaKenichi/items/a279857cc2d22a35d0dd

CONTROLLER実装

src/main/java/com/example/webapi/controllerのItemController.javaに追加します。

ItemController.java:のselectByKeyの下に以下を追加します。

```
@PutMapping(value = "/items/{id}")
public void updateByKey(@PathVariable int id, @RequestBody Item item) {
    item.setId(id);
    itemService.updateByKey(item);
}

@DeleteMapping(value = "/items/{id}")
public void deleteByKey(@PathVariable int id) {
    itemService.deleteByKey(id);
}

@PostMapping(value = "/items")
public int createNew(@RequestBody Item item) {
    return itemService.createNew(item);
}
```

@PutMappingアノテーション

メソッドがPUTの場合に評価される。

value = "xxx"で/api以降のURLを取り出し、合致したものが実行される。

• /api/items/1 -> updateByKey(1, item)がコールされる

@PathVariableはPathに含まれる変数を取得する。

サンプルの場合URLの{id}に設定された値をint idとして取り出す。

@RequestBodyはフロントエンドから渡されるリクエストボディ部を取り出します。サンプルの場合、id, title, content, statusの4つの項目を持つJsonデータとなります。

データ例

```
{
    "id": 10,
    "title": "PUT更新テスト",
    "content": "存在しないIDは新規に登録される",
    "status": "PROGRESS"
}
```

@DeleteMappingアノテーション

メソッドがDELETEの場合に評価される。

value = "xxx"で/api以降のURLを取り出し、合致したものが実行される。

• /api/items/1 -> deleteByKey(1)がコールされる

@PostMappingアノテーション

メソッドがPOSTの場合に評価される。

• /api/items/ -> createNew(item)がコールされる

@RequestBodyでフロントエンドから渡されるリクエストボディ部を取り出します。

ビルド・動作確認

ビルド

gradlew buildでビルドします。

```
PS C:\home\webapi> ./gradlew build

> Task :test
2020-07-11 22:49:08.994 DEBUG 20096 --- [extShutdownHook]
o.s.w.c.s.GenericWebApplicationContext : Closing
org.springframework.web.context.support.GenericWebApplicationContext@39401536,
started on Sat Jul 11 22:49:05 JST 2020
2020-07-11 22:49:09.000 INFO 20096 --- [extShutdownHook]
o.s.s.concurrent.ThreadPoolTaskExecutor : Shutting down ExecutorService
'applicationTaskExecutor'

BUILD SUCCESSFUL in 17s
5 actionable tasks: 5 executed
```

起動

SPRING-BOOT DASHBOARDでwebapiを起動します。

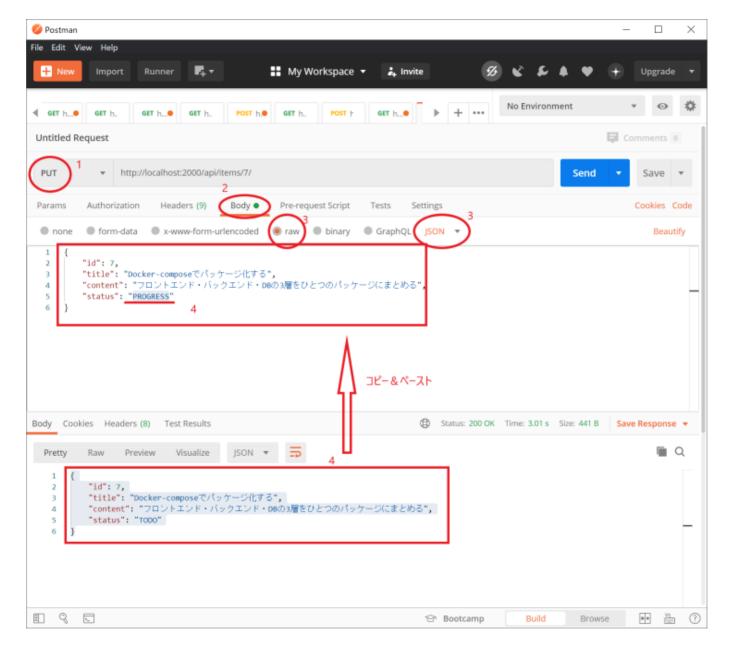
更新動作確認

Postmanを起動し、下記URLにアクセス(GET)して更新対象データを取得します。

```
http://localhost:2000/api/items/7/
```

- 1. メソッドをPUTに変えます
- 2. 内容をBodyを選択します
- 3. 形式をrawを選択し、フォーマットをTextからJSONに変更します
- 4. 結果をコピーして、body部分にペーストした後に、statusを"PROGRESS"に変更します

```
{
    "id": 7,
    "title": "Docker-composeでパッケージ化する",
    "content": "フロントエンド・バックエンド・DBの3層をひとつのパッケージにまとめる",
    "status": "PROGRESS"
}
```



5. Sendボタンをクリックします -> 応答は空になりHTTP STAUSは200で返ってくれば成功です



6. メソッドをGETに戻して再度データを取得します -> statusが"PROGRESS"に変わっています



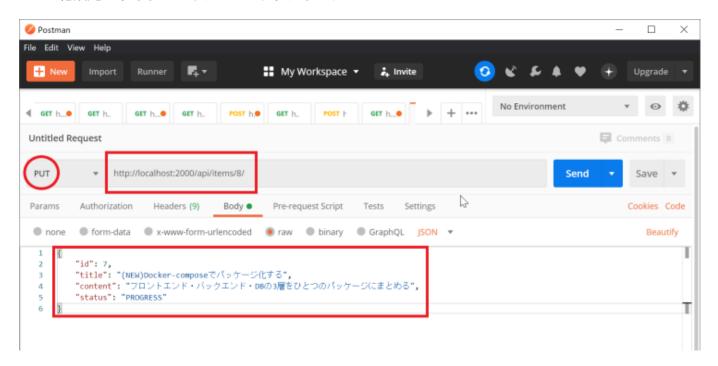
更新(新規登録)動作確認

PUTで存在しないIDを更新しようとすれば新規に登録できることを確認します。

1. 先ほどの画面の続きで、送信データのtitleを下記のように変更します

```
{
    "id": 7,
    "title": "(NEW)Docker-composeでパッケージ化する",
    "content": "フロントエンド・バックエンド・DBの3層をひとつのパッケージにまとめる",
    "status": "PROGRESS"
}
```

- 2. メソッドをPUTに変更します
- 3. URLをhttp://localhost:2000/api/items/8/ に変更します (重要)
- 4. 他設定を確認しSendボタンをクリックします。



5. メソッドをGETに戻して再度データを取得します -> id=8で新規データが登録されます



削除機能確認

DELETEでid指定したデータの削除を確認します。

- 1. メソッドをDELETEに変更します
- 2. URLはhttp://localhost:2000/api/items/8/ になっていることを確認します
- 3. Send ボタンをクリックします
- 4. メソッドをGET に変更します
- 5. URLをhttp://localhost:2000/api/items/ に変更します
- 6. Send ボタンをクリックします -> id=8 のレコードが削除されています

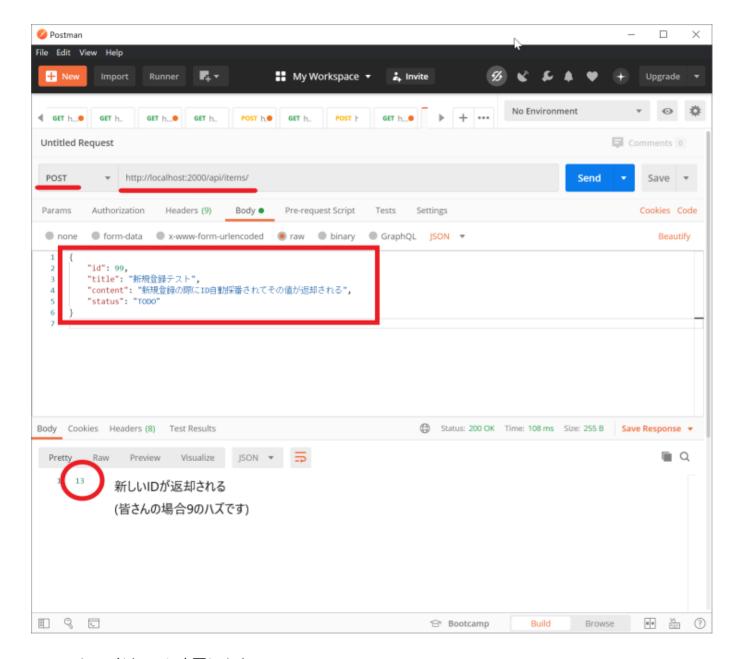
新規登録機能確認

POSTでデータの新規登録を確認します。自動採番されたIDが返却されることも確認します。

- 1. メソッドをPOSTに変更します
- 2. URLはhttp://localhost:2000/api/items/になっていることを確認します
- 3. Body部分に下記内容の新規登録データを作成します。

```
{
    "id": 99,
    "title": "新規登録テスト",
    "content": "新規登録の際にID自動採番されてその値が返却される",
    "status": "TODO"
}
```

4. Sendボタンをクリックします -> 新規IDが返却されます。(皆さんの場合は9)



- 5. メソッドをGETに変更します
- 6. URLをhttp://localhost:2000/api/items/9/ に変更します
- 7. Send ボタンをクリックします -> 先ほど登録した内容が表示されます

```
Body Cookies Headers (8) Test Results

    Status: 200 OK Time: 23 ms Size: 394 B Save Response ▼

                                                                                                                                                  Q
                                Visualize
                                                                                                                                               Pretty
                                             JSON ▼
                                                                                                                                                     I
            "id": 13,
"title": "新規登録テスト",
"content": "新規登録の際にID自動採番されてその値が返却される",
"status": "TODO"
                                                                                                                                                     ı
Q
          k_

⇔ Bootcamp

                                                                                                                 Build
                                                                                                                             Browse
                                                                                                                                          ■ e U1
                                                                                                                                                      (?)
```

まとめ

バックエンド開発では、「Spring Boot」フレームワークを用いたRESTful API開発を学びました。

リクエストの扱いやログ出力、例外(今回は触れていませんが)など、フレームワークが多くの部分をカバー してくれており、開発者は、データ構造とビジネスロジック実装に集中できることが体験頂けたと思いま す。

次週はいよいよ、フロントエンドとバックエンドを結合し、アプリとして完成させます。